

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	木材倉庫火災での輻射熱により資器材及び隊員装備が破損し、負傷しそうになった事例
3. 体験した事例の中心的要素	火災中期の段階で現着、直ちに隊員2名にてタンク水による1線放水を開始する。 活動開始時よりかなりの熱を感じていたが、筒先員を交代しながら活動を続けた。 指示により隊員、車両とも一旦退避した直後にフラッシュオーバーが発生、一気に火災最盛期となった。
4. 体験した事例の原因・理由	熱いと感じていながらも、大丈夫だろうと判断をし放水を継続したことによる。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年9月2日 午前1時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：火災現場東側の公道上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	火傷・熱傷
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、[その他:鉄骨造 準耐火建築物]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[38]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[8] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[34]歳、勤続年数[13]年、現場経験年数[6] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A・B	直近部署したタンク車より隊員2名で1線延長し放水体制をとる。	
経過2	A・B	タンク水にて放水開始。 建物1棟及び収容物(木材)が炎上中。	
経過3	A・B	輻射熱が強く、筒先員を交代しつつ相互に水をかけ体を冷却しながら放水を実施。	他隊にて2線目を配備
経過4	A・B	上記を繰り返し放水を継続するも、通路を挟み隣接する別棟倉庫に延焼拡大する。	
経過5	A・B	延焼建物付近に部署したタンク車を移動させるため、一旦放水を停止する。	
経過6	A・B	車両移動後、全放水員に対し退避指示が出される。管そののみを外し退避。	
経過7	A・B	延焼建物よりフラッシュオーバーが発生、火災は最盛期となり建物が倒壊する。	
経過8	A・B	退避時に残したホースは焼損し、携帯無線及びヘッドライトが熔融していた。	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 :事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合:ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

避難退避がうまくいった。 指揮者が適切に指示した。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

一次出動隊 初期活動図

第一次出動隊

初動時の活動状況

出火建物

延焼建物

指令車

救急車

ポンプ車

報告対象放水員

タンク車

救助工作車

青中継送水
2車×20本

(65mm
×10)

(65mm
×10)

赤筒先配備 (30mm×3)

(50mm×2)

(50mm×4)

現場指揮部

